

## PEOPLE

YOU YOU INFORMATION

[ピープル]

取材・文/佐藤ゆかり

撮影/高橋 稔

インタビュー

### 森下典子さん

「あなたも!? 私も、よ!」  
「味」を通し、読者と  
そんな思いを共有したい!

『いしいたべもの』



もりした・のりこ●1956年、横浜市生まれ。日本女子大学文学部卒業。大学時代から『週刊朝日』のコラム「デキゴトロジー」の取材記者として活躍、\*典奴、として人気を博す。87年に取材体験をまとめた『典奴どすえ』、その後も『デジデリオ』などを出版。飾らない視線で描く軽やかな文章が人気を集め、ルポライター、エッセイストとして活躍を続ける。02年出版の『日日是好日』(飛鳥新社)はベストセラーに。

世界文化社  
1470円(税込)

ヒレが焦げた鯛焼き、懐かしのカレーパン、夜更けに恋しくなるどん兵衛のおあげ…。濃密な食べ物の表現に、思わず唾をゴックン、著者の思い入れに「そうそう」と頷く。同時に、それにまつわる自分の思い出も広がって、美味しい記憶で五感も心もいっぱいになる本だ。

ふと思いついたら、最後。食べたくて、食べたくて夜も眠れない(笑)。そんな食べ物はありませんか? 私はケチャップたっぷりのおムライス、カレーパン、メロンパン、舟和の芋ようかん、江戸むらさき、ブルドックソース…。濃厚な旨みがつ

まった鮭のカマもたまりません! あんまり美味しくて、脳がグルンとでんぐり返る(笑)。しかも、美味しいものを食べる醍醐味は「美味しい」だけじゃない。腸と一緒に脳も蠕動し、それに刺激されて脳のシワの間に刻まれていた記憶が呼び覚まされるんじゃないかしら? カレーパンを食べると、亡くなった父の

チクチクしたヒゲの感触を思い出すんです。おこわのおにぎりをみると、連鎖反応のように初恋の名波君が浮かんでくる。すると切なくなったり、物悲しくなったり、さらなる幸せを感じたり。食べ物には記憶とつながっています。『食べること』は、自分

の人生を味わうに等しいことだと思うんです。

そんな、食べたくてムラムラしてくる気持ちを引き出したい。食べ物の匂いととも、読んでいる人の思い出が呼び起こされるような本を作りたい。そう思って、本当に美味しいと思う食べ物を、思い入れや思い出とともに綴ったのが本書です。

何より、本を読んでくれた人と思いを共有できたら、嬉しいですね。取り立ててどうということでもないし、深く考えることもない。だけどふとした時に「こう感じているのは私だけ?」と思い、「他の人も同じように思っていた」とわかると妙に嬉しくなることありませんか? その「自分だけじゃない」という感覚は不思議に癒されますよね。この本もそんな1冊でありたい。

例えば、カステラ。黄色いカステラを見ると、牛乳が飲みたくなるのは私だけ? 茄子にも思い入れがあります。茄子のうまさを知ったのは大人になってから。子どもの頃は茄子の味噌汁が嫌いだったんです。お椀のなかにブクツと浮き、汁を吸ってだんだん黒ずんでいく。「何か汚い」と思っていた(笑)。同じように茄子の味噌汁が「苦手だった」という人はいませんか? 「そうそう、これって無性に食べたくなる時があるよね」「私も同じ」。本を読んでくださった人と、そんな思いを共有したい。同じ人がいる。それは、お互いの心を楽しくするよう思うんです。